

# 福岡市医連ニュース

福岡市医師連盟  
福岡市早良区  
百道浜1-6-9  
福岡市医師会内  
委員長  
江頭 啓介

## 第22回参議院選挙終結

### 比例区 西島氏・安藤氏

### 議席獲得ならず

### 県選挙区は大家・大久保 W当選

6月24日に公示された第22回参議院通常選挙は11日投票が行われ、本連盟が推薦した福岡県選挙区の大家・大久保両候補は3位に大差を付けての当選となったが、比例区の西島・安藤両候補は票が伸びず、落選となった。

なお、日医連の支援を受けた比例区・清水候補（みんなの党）も落選となり、分裂選挙の影響をものろに受けた形となった。

今回の結果は医療崩壊を加速させる危険性があるものであり、今後の情勢を注意深く見守っていく必要がある。

#### < 比例区 >

	福岡県	全国
西島英利(自民)	25,581票	76,131票
安藤たかお(民主)	1,719票	71,346票
清水鴻一郎(みんな)	231票	22,711票

#### < 県選挙区 >

当	大家さとし(自民)	774,618票
当	大久保勉(民主)	673,749票

### 江頭委員長 「連盟員の多大なる支援に感謝」

始めに今回の選挙におきましては、昨年10月の西島英利君を励ます会に始まり、支援者獲得運動、電話作戦等連盟員の皆様には多大なるご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。また、皆様方のお力添えを生かすことが出来なかつたことを執行部を代表して深くお詫び申し上げます。

さて、皆様ご存知のとおり比例区において日医連が推薦・支援した3人の候補が全員落選するという大変残念な結果となりました。敗戦の原因としては、日本医師会の会長選があつたことから日医連の方針決定が遅れ、全国的に選挙活動の出遅れがあつたこと。日医連で候補者を一本化することが出来ず分裂選挙となつてしまい、票の分散を招いてしまつたこと等が挙げられます。本連盟でも今回の選挙を医療再生への絶好の機会と位置づけ、医連活動は思想運動ではなく我々の生活闘争であることを連盟員に再認識していただき、自民・民主両候補を推薦することににより選挙を棄権することなく投票していただくことによつて医師連盟の団結を維持する。また、その得票数の合計をもつて医療界を代表する組織であることを社会的にも認知してもらふことを目標として闘つてきました。しかしながら、今回の得票数を見ますと各候補とも地元では票を多く集めました。3候補の合計は17万票に留まりました。このことは個人主義的傾向や政治的関心の薄い医師が増えていることも起因していると考えられます。

が、何よりリーダーシップを発揮し、医療界全体をまとめ上げ引張つていくことが出来なかつた日医連をはじめとする我々執行部の力不足が最大の原因であつたと反省いたしております。ただし数字だけを見れば完敗ではありませんが、逆に言えば候補者を一本化していけば十分当選させることが出来る票数でもありますので、今後の選挙に向けてどう取り組むべきか検討する際の良い教訓にしたいと思ひます。

今回の結果により次の診療報酬改定が我々医療人にとつて大変厳しくなることは火を見るより明らかであり、また、今までの基本方針である医系議員や社会保障問題に積極的に取り組む議員を支援することにより、医療の諸問題を国政の場へ反映させるために努力するといふやり方は非常に困難になつたことになりました。日医連も政府与党に対して是非々々で医療専門団体としての意見を申し上げ、安全で安心の医療政策を提言し、医療再生に向け全力を挙げ取り組んでいくことを表明しております。我々としまでも政局の動向を見守り、我々の意志を生かす道を冷静に探る必要があると考えます。連盟員の皆様の一層の団結と積極的なご支援・ご協力を賜りますことを、心よりお願い申し上げます。